

あす
未来が輝く村づくり“元気な”

玉川村

福島県玉川村勢要覧2021





遥か昔から脈々と

受け継がれてきた

玉川村での暮らし。

先人たちから私たちへと

手渡されてきた

大切な宝物。



この村の豊かな自然と、

伝統文化と、

人々の営みと。

これまでも、これからも

途絶えることなく

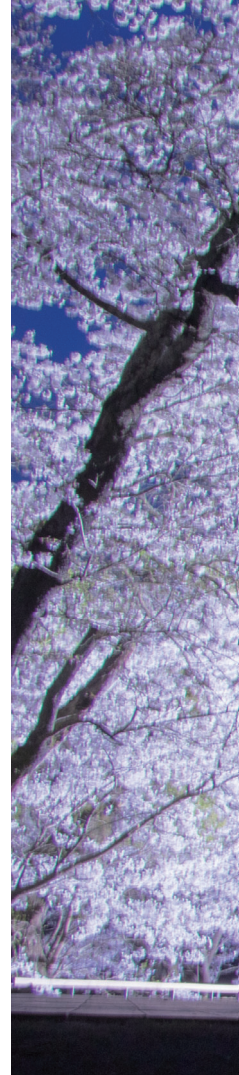
次の世代へ。

無限の可能性を信じて。

Contents | Guide to Tamakawa Village

1	たまかわを巡る・楽しむ	4
2	たまかわで学ぶ・遊ぶ	12
3	たまかわの四季	14
4	たまかわの歴史	16
5	たまかわの特産品・お土産	18
6	たまかわに住む	20
7	たまかわで育む	22
8	たまかわの国際交流への取り組み	23
9	たまかわマップ	24
10	玉川村振興計画後期基本計画・事業の概要	26
11	玉川村の概要	27

あす
未来が輝く村づくり
“元気な”たまかわ





静かな森を背にたたずむ「森の駅 yodge」

観光交流施設
森の駅
yodge

もりのえき よっじ

旧四辻分校を

リノバージョン

明治時代に開校し、これまで多くの方々に学びの場として親しまれてきた旧四辻分校が「たまかわけ観光交流施設 森の駅 yodge」として生まれ変わりました。

yodgeには、宿泊室や大浴場のほか、冒険心をくすぐる屋根裏ライブラリー、屋根の上からの景色が楽しめる展望デッキ、常設のカフェもあり、来訪者の快適な空間を演出するモダンな設備が備えられています。一方で、歴史ある旧四辻分校のノスタルジックな面影を大切にし、当時の床材や柱、梁をそのまま再利用し、宿泊室の入り口には、当時の教室のガラス窓が使用されています。



地元木材を使用したトレーラーハウス

玉川村の静かな里山の中に位置し、農業体験や清流の散策等をはじめ、テントサウナや焚火など、様々なアウトドア体験が、初めての方でも気軽に安心して体験できる場所になっています。

また、施設内での宿泊はもちろんのこと、地元産の木材をふんだんに使用したトレーラーハウスでの宿泊、テントでの宿泊など、来訪者の宿泊スタイルに合わせて選ぶことができます。

玉川村では、地域とのつながりを大切にしながら、多くの人々が利用できる施設を整備することにより、交流人口の増加を目指していきます。

来訪者の皆様に、村の良さ、自然の良さ、田舎の良さを体験し、知ってもらうことにより、移住などのきっかけづくりができればと考えています。



常設カフェから桜も眺められます



夜のyodge 桜のライトアップ



yodgeの室内



テントサウナ



スタイルに合わせた宿泊



東野清流での散歩



yodgeの近くにある景勝地「東野の清流」



満天の星空の下でキャンプ

日本の滝100選 乙字ヶ滝

おつじがたき

名瀑「乙字ヶ滝」

玉川村と須賀川市の間を流れる阿武隈川唯一の滝で、乙の字の形で水が流れ落ちることからその名の由来といわれています。日本の滝百選にも選ばれており、特に春の桜の季節には多くの人々が訪れる玉川村随一の観光名所です。

水かさが増すと、約100mもある滝幅いっぱいに落下する水しぶきが、松の緑にも映え雄大な景色を眺めることが出来ます。

元禄2年には、俳人松尾芭蕉が訪れ「五月雨の滝降りうづむ水かさ哉」の俳句を詠んだとされており、滝見不動堂のかたわらには句碑があります。



乙字ヶ滝



松尾芭蕉と河合曾良の像



芭蕉の句碑

玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり

立ち寄る機会を増やし、滞在時間を延ばせる空間づくりによる、交流人口・関係人口の拡大と自然・歴史・交流を基本に、村内の観光周遊性を高めることを目的に「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画（令和2年3月13日国土交通省登録）」を推進しています。

また、計画推進に当たり「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり推進協議会」を設置し、幅広い見地から意見を聴取し実施に反映するための体制づくりも行っています。

計画では、著名な建築家が設計を手掛けた空き店舗をリノベーションし、観光拠点として「（仮称）複合型水辺施設」を整備し、民間事業者によるオープンカフェなどの飲食施設やカーニバル体験施設、サイクリストの休憩施設、周辺観光情報の発信施設等として活用していきます。また、特産品を活用した料理フェスやマルシェ、サイクリングイベント、水辺での環境教育、写真コンテスト等のイベントも実施していきます。



リノベーション予定の空き店舗

「乙字ヶ滝広場」を整備し、みちのくサイクリングロードを活用したサイクリングや、新興の細道の散策、楽しめる移動手段としての超小型電気自動車ツアーや体験試乗のほか、起業支援としてキッチンカーやコンテンツハウス等でのリアルショップを実施していきます。



①イメージ



②イメージ



全景イメージ

“職・住・遊・学”

すがま プラザ

「働く」・「住む」
「遊ぶ」・「学ぶ」の場所へ

令和2年3月に閉校した旧須釜中学校の敷地及び須釜公民館を含む範囲全体を「すがまプラザ」としています。

「すがまプラザ」のコンセプトについては「職」「住」「遊」「学」の場の提供としており、「職」については、校舎を活用しテレワーク等に対応した「場」の提供として「コワーキングスペースたまかわ」を展開しています。また、令和3年度には、施設の改修を行いながら、首都圏からのサテライトオフィスの誘致に取り組んでいきます。

「住」については、広い校庭を活用し、民間企業との協働による宅地分譲を想定しています。ガーデニングや家庭菜園が可能な比較的広い宅地の分譲など、特徴ある住環境として発信し、首都圏をはじめとする村外からの、移住者の受け皿となるよう取り組みます。

「遊」「学」については、音楽室や家庭科室、体育館等を活用し、スポーツ活動も含めた生涯学習等の展開を行える場としていく計画です。

また、校舎棟内に須釜支所の機能を充実させた須釜行政センターを開設しており、住民の利便性の向上にも寄与する施設となっています。



Wi-Fiが利用できる中庭テラス



リノベーション予定の校舎



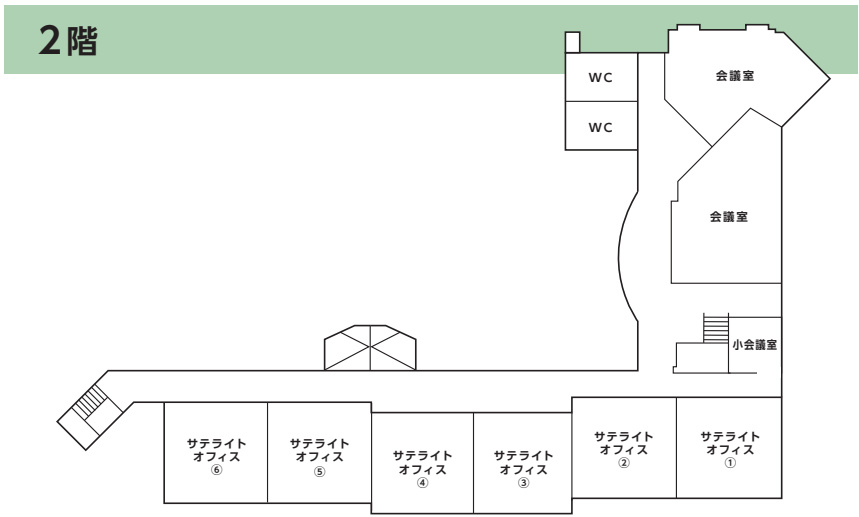
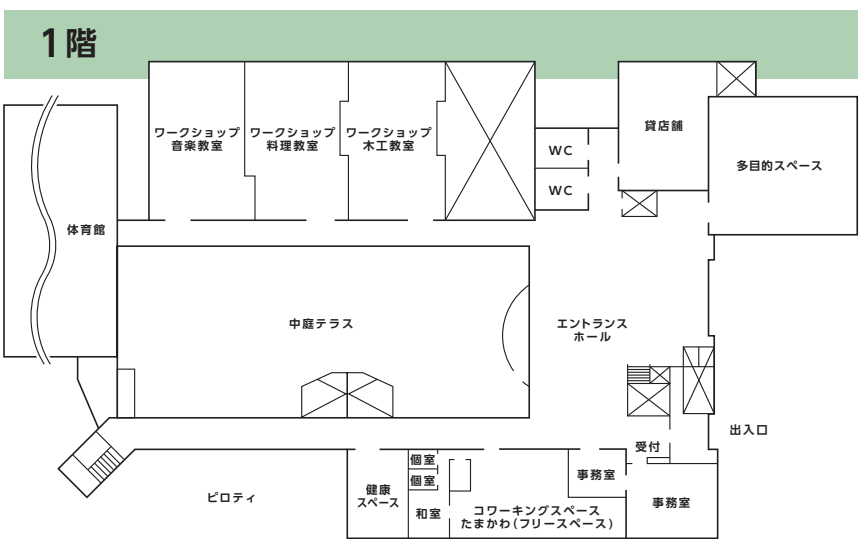
コワーキングスペースたまかわ(フリースペース) ※10ギガビットイーサネット導入



こたつ部屋でのくつろぎスタイル



中庭での焚火ミーティング



すがまプラザ内施設

コワーキング スペース たまかわ

スタイルに応じて
選べる働き方を

コワーキングスペースがある校舎棟は、木材がふんだんに使用され温かみのある雰囲気のある建物で、大開口から差し込む光や、窓から望む豊かな自然、中庭など、開放的で気持ちの良いリラックスできる空間となっております。スタイルに合わせて、お仕事ができる場所です。



伝統文化を伝える

南須釜の 念仏踊り

みなみすがまのねんぶつおどり

江戸時代から 受け継がれてきた 伝統の舞

本村のほぼ中央に位置する南須釜地区。この山あいの地域に江戸時代から続く民俗芸能があります。春と夏の年2回、東福寺境内で行われる「南須釜の念仏踊り」です。



東福寺境内へ

地区の伝承によると、江戸初期の慶安年間（1648～1651）、16歳以下の男女が新盆の家々をまわり、仏を供養するために踊ったのが始まりとされています。

慶安年間といえは徳川家光が将軍だった時代。その頃から代々、受け継がれてきたのかと思うと感慨深いものがありますが、その間、変遷がなかったわけではありません。明治の後半から昭和初期にかけて一時、途絶えた時期があったのです。

それを昭和27年（1952）に復活させたのが明治14年（1881）に生まれ、12歳のときから踊りに参加していた大野ケサさん（故人）です。

現在の踊りはケサさんの記憶を基に再現されたもので、その後「南須釜念仏踊り保存会」によって継承され、昭和50年（1975）には県の重要無形民俗文化財に、昭和53年（1978）には文化庁の民俗文化財に、平成16年（2007）には福島遺産百選に認定されています。



奉納する少女たちと来場者

ふるさとの 財産として 未来へつなげたい

念仏踊りが行われるのは、毎年4月3日（春の大寺薬師祭）と8月14日（お盆）の午前中。東福寺の境内において、村内の12歳までの少女約10人によって奉納されます。

現在、保存会に伝わる曲目は「小夜の中山」から「下妻」まで全9曲。華やかな衣装を身にまとった少女たちが、保存会の方々が奏でる笛や鉦、歌に合わせて「立ち踊り」と「座踊り」を披露します。

全曲、踊り終わるのに約25分。全員が揃って踊るには日々の練習が欠かせず、保存会では月に1回、地区の集会所を利用して合同練習を行っています。

踊りを指導するのはかつての経験者や地域の人たち。まだあどけなさが残る子どもたちに全9曲の振り付けを手取り足取り教え、一人前の踊り子として育てていきます。

そしてやっとうまく踊れるようになった頃、その子たちは卒業の時期を迎え、また新しい子どもたちに受け継がれ、この世代交代を繰り返しながら、念仏踊りは代々、ふるさとの財産として踊り継がれていきます。



踊りを奉納する少女たち



“子育てを全力応援”

次世代を 育む!

玉川村では、出生から就学まで、
多様な支援方法で「子育て」を
全力で応援!!



認定こども園 たまかわクックの森

0歳児から安心して預けることができる場所

平成28年4月に玉川村社会福祉協議会の運営により開園した幼保連携型認定こども園(定員230名)で、子どもたちが心身ともに健全で心豊かに成長するための環境づくりを重視し、教育と保育の質の向上に努めています。施設は、大断面集成材による木造平屋建てで、温かみのある快適な空間となっています。



こどもの駅

安心して遊べる素敵な場所

認定こども園「たまかわクックの森」の周囲に広がる「こどもの駅」。

野外ステージ、クックドームたまかわ、公園遊具などがあり、小さな子どもでも安心して遊べる素敵な場所です。お天気のいい休日には、親子で遊びに来てください。



空港公園

未来に広がる「空の公園」

福島空港公園は、県中地方生活圏の広域公園として、福島空港に隣接しています。エアフロントエリア・野外活動エリア・緑のスポーツエリアがあり、玉川村では「福島県の空の玄関口」として空港・公園の活用をお勧めしています。休日には多くの方が訪れ、美しい緑につつまれた公園内でそれぞれの「時」を過ごされています。



わくわくらんどたまかわ

空港内の安心して遊べる場所

福島空港ターミナルビル3Fにある「屋内遊び場わくわくらんどたまかわ」。

小学2年生までの幼児・児童が利用できます。飛行機の離着陸を眺めながら小さなお子さんを安心して遊ばせることが出来る場所です。



NPO法人たまかわ元気スポーツクラブ

手軽にスポーツを楽しむ

NPO 法人たまかわ元気スポーツクラブは、平成15年に総合型地域スポーツクラブとして設立。

いつでも、どこでも、だれでも手軽に楽しめるスポーツをサポートしていきます。

総合型地域スポーツクラブ
NPO 法人 (特定非営利活動法人)

**たまかわ元気
スポーツクラブ**



健康の駅 たまかわ

いっしょに広げる健康づくりの場所

「集まる人たちが自由に参加できる健康交流拠点。楽しみながら健康づくり。ココロとカラダをリフレッシュ。」をキャッチフレーズに実現した施設です。健康づくりから介護予防まで様々なトレーニングを行うことができるスペースです。

たまかわの

春



乙字ヶ滝のライトアップ

乙字ヶ滝のライトアップ

桜の時期に合わせて、乙字ヶ滝のライトアップを実施しています。公園内には、色とりどりのランタンを設置し多くの皆様楽しんでいただいています。



公園内のランタン



金毘羅桜

中地区に悠然と立つ、樹齢300年の紅しだれ桜。以前は種まき桜といわれていました。幹の太さ4m50cm、樹高13m。天明・天保の大飢饉の後、金毘羅詣りの記念樹として植樹されました。根元には金毘羅様の祠が建立され、桜とともに地域を見守っています。
※私有地につき、見学の際はひと声お掛けください。



カヌーで楽しむ乙字ヶ滝

乙字ヶ滝でのカヌー体験

将来の事業化へ向けて阿武隈川を利用したカヌー体験の実証実験を実施しています。



由ノ杜公園

大越由(よしお)さんが丹精込めて整備をしている、500本以上の吉野桜の並木。展望の丘から見る公園は壮観です。
※私有地につき、見学の際はひと声お掛けください。



乙字ヶ滝公園サイクリングロードのスタート

みちのくサイクリングロード

みちのくサイクリングロード(県道：須賀川二本松自転車道線)は、福島県の中央を南北に流れる阿武隈川沿いを走り玉川村から郡山市に至る約30kmの自転車道です。周囲は豊かな田園風景が広がっており、起点は玉川村乙字ヶ滝公園となっています。



こどもの町村での花火大会

たまかわ夏まつり

毎年8月13日に開催される「たまかわ夏まつり」は、村内の方や帰郷している方が毎年楽しみにしているお祭りです。昔ながらの出店屋台を楽しみながら、クライマックスの花火大会に移ります。また、屋間の楽しみとして、水フーセンによる水合戦も開催されています。チームごとに仮装をしながらの合戦は初めて見た方にも大いに楽しんでいただけます。



たまかわの

夏



ざるなし摘み取り体験

他所では体験することができない「ざるなし」の摘み取り体験を9月中旬から10月中旬まで楽しむことができます。



BBQ (バーベキュー)

玉川村では、スポーツ大会等の後に、地域で「反省会」として、BBQや芋煮会を行う文化が昔からあり、地域の交流を深める大切なイベントとなっています。

村外から遊びに来られた方も、BBQなどを気軽に楽しめる場所として、森の駅yodgeや空港公園内の野外活動エリアがあります。



たまかわ産業まつり

農業・商業・工業が連携して催す一大イベントです。玉川村の特産品をはじめ様々な催しを1日楽しむことができます。



空港公園内のコースを満走

MTBコース実証実験事業

岩法寺から福島空港公園内を走れるマウンテンバイクの実証コースで将来の事業化に向けて実験中です。



小型電気自動車・バイク

楽しめる乗り物での交通実証実験事業

観光周遊性をたかめる移動手段として小型電気自動車・トライク・自転車(ロードバイク・e-bike・クロスバイク・MTB等)での交通実証実験を実施しています。



やっちゃん小屋の焚きあげ

小正月の「やっちゃん小屋」

地域に古くから伝わる小正月の伝統行事で、お正月飾りや古いお札を焚き上げ、無病息災や五穀豊穡を願い行われます。

竹と藁でつくられた「やっちゃん小屋」の中で、焚きあげ前に、子どもたちがお餅やマシュマロを焼いたり楽しめます。



たまかわの 冬

玉川の歴史

えだいらいせき

江平遺跡 — 時を超えた天平人の記憶 木簡 —

江平遺跡は、阿武隈川右岸に位置しており、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が多数発見されました。円墳を中心とした31基の古墳のほかに、古墳時代および奈良・平安時代の住居跡合わせて74軒、奈良・平安時代の建物跡98棟などがみつかっています。

特に、天平十五（743）年と墨書きされた木簡が出土しており、「続日本紀」の内容を証明する貴重な資料となっています。また、木簡の出土したすぐ近くからは、竹製の横笛もみつかったっており、年代が明確なものとしては、日本最古と思われるとても貴重なものとなっています。

木簡には、聖武天皇が最勝王経の読経を命じたことを受けて、江平遺跡周辺に居住していた人が最勝王経と大般若経をたくさん読経したという内容が記されています。



川辺宮ノ前古墳

かわべみやのまえこふん

【県指定史跡】

古墳時代後期の古墳で、墳丘はすでに原形を留めていませんが、横穴式石室の一部が残っています。

石室内部は極めて精巧な切石によって構成され、当時すでに権力者がいたことを物語っています。



石造五輪塔

せきぞうごりんとう

【国重要文化財指定】



昭和13年に国の重要文化財に指定された五輪塔は、藤原時代末に領主源基光の墓として建立された石塔婆で、日本の石造工芸史上、また仏教美術史上でも非常に評価の高い貴重な財産として巖峯寺参道の覆堂に安置されています。

東福寺舍利石塔【国史跡指定】

とうふくじしやりせきとう



東福寺境内（南須釜字久保宿）にある舍利石塔。元久二年（1205年）乙丑・当地の開山和尚の舍利が安置されており、鎌倉時代の弥勒浄土往生の思想を表現したものです。

宥音聖人堂

ゆうおんしょうにんどう

1575年創立の宥音聖人堂は、通称「山小屋の聖人様」といわれ、言い伝えでは「宥音」という名僧が、山頂に穴を掘り、干し柿一連を持って、穴に入り「無病息災、安産」を祈願し、鐘を鳴らし読経を続けること100日、仏様になったとのこと。

安産の守護神として近郷近在から多くの信者が参拝に訪れます。

4月の第2日曜日が祭礼日となっています。



川辺八幡神社本殿【県重要文化財指定】

かわべはちまんじんじやほんでん

江戸時代初期の建造物で、平成5年〜7年にわたり、県重要文化財として修復工事が行われた本殿は、永くこの地を治めていた石川氏の氏神として、広く信仰を集め崇められてきた由緒ある古社です。



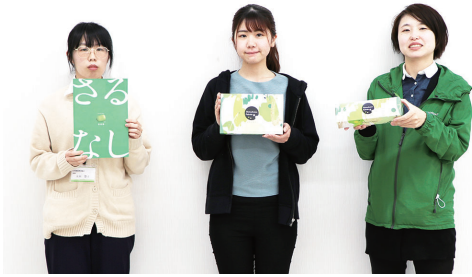
現在は、保存のために瑞垣で囲まれているが、屋根を支える端正で見事な桁の彫刻などは、見るものを圧巻する美しさです。主材に頑丈な栗の木を使い、建築様式は太い木割りを用いた豪壮な江戸初期の造りで、寛文・享保などの改造を経て今日に至っていることが現存する6枚の棟札から伺え、「奉棟札正八幡宮武運長久祈慶長四巳亥十月」の棟札写しからみて、慶長年間の建立ではないかと推察されています。

また、内陣天井裏に南北朝期の貴重な古文書が秘蔵されていたり、源頼朝の大蛇退治を加護した伝説など、歴史浪漫を感じさせる話が残っています。



たまかわの取り組み

玉川村観光物産協会



「そらのむら、たまかわ」へようこそ！

玉川村観光物産協会は平成 29 年度に発足しました。元気な玉川村を好きになってもらえるような情報をホームページやFacebook、instagramを活用し、どんどんお届けしていきたいと思っています！

また、当協会オリジナルのさるなしを使用した商品も好評発売中です。



たまかわ未来ファクトリー



たまかわ未来ファクトリー株式会社は、村のふるさと納税の返礼品の開発や取りまとめ、配送事業を行いながら、特産品のネット販売、公設民営方式による「森の駅 yodge」の管理・運営を行っています。若者が地域でビジネスを展開できる環境づくりに力を入れています。



たまかわの特産品

幻のフルーツさるなし



「さるなし」はキウイフルーツの原種で、果実は「コクワ」とも呼ばれる天然の栄養素豊富なスーパーフルーツ。あまりのおいしさに、猿が食べて無くなってしまったことが名前の由来とも言われています。キウイフルーツを小さくしたような形で1粒の大きさは約3cm程度。小さな果実の中にはビタミンやミネラルなどの栄養素がたっぷり。野生の木の実は一番の美味ともいわれていますが、生食で食べられる期間が非常に短く、市場に出回りにくい、幻の果実です。

道の駅たまかわ 玉川村生産物直売所 こぶしの里



元気で安全な畑の宝物がどんどん生まれています。

元気な人が作物を育て、元気な人が販売する農産物・農産加工品どれをとってもスゴイものばかり。

福島県石川郡玉川村大字岩法寺字宮ノ前140-2

TEL 0247-57-3800

<http://www.kobushinosato.com/>



さるなしを原料にした商品



玉川大学の学生がデザインした商品



たまかわ米



「しぼりトマト」で作ったトマトジュース



水を極限まで与えず栽培するしぼりトマト



玉川大学との連携協力



平成 29 年 1 月に協定を締結

玉川村と玉川大学（東京都町田市）は、包括的な連携のもと、まちづくり・産業・教育・文化・環境・学術等の分野において、相互に協力し地域の発展と人材の育成に寄与することを目的に平成 29 年 1 月に協定を締結しました。
締結以来、さるなし商品のパッケージ提案、地域資源の再発見、さるなしの 6 次化、PR 動画作成、中学生研修等、様々な事業を展開しています。

さるなしを映像・CMでPR!!

玉川村を村内外の多くの方々に知ってもらおうと玉川大学芸術学部の学生が企画・撮影し、PR動画を制作しました。

「さるなし、とさるあり、」

東北映像フェスティバル2018 映像コンテスト 優秀賞
◀ CM・キャンペーン部門 ▶

【ストーリー】
カップルがとあるカフェでコーヒーを注文すると「さるなしにしますか？さるありにしますか？」と尋ねられ、彼女は迷わず“さるなし”を注文。何も知らない彼氏が困惑しながらも“さるあり”を注文すると…



「サルは本当にさるなしを食べるのか？」

ふくしまの元気！応援ふるさとCM大賞2017 福島県知事賞

玉川村の特産品といえば「さるなし」ですが、名前の由来をご存知でしょうか？由来には諸説ありますが、あまりの美味しさにサルが食べてすぐになくなってしまふことから「さるなし」と名付けられたそうです。でも、本当にサルはさるなしが好きなのでしょうか？玉川村にはサルが生息していないため、誰もサルがさるなしを食べているところを見たことがありません。果たしてサルはさるなしを食べるのか…



たまかわに住む!



移住定住促進補助事業

◇対象者

○移住者向け

(移住者居住支援事業)

令和4年3月31日までの間に、新築住宅(令和2年4月1日以降に登記した物件)を取得し要件に該当する方

(戸建て中古住宅取得補助事業)

令和4年3月31日までの間に、中古住宅(令和2年4月1日以降に契約締結した物件)を取得し要件に該当する方

○定住者向け

(若年層定住促進補助事業)

45歳未満の方で、令和4年3月31日までの間に、新築住宅(令和2年4月1日以降に登記した物件)を取得し要件に該当する方

◇補助率(限度額)

○移住者向け

(移住者居住支援事業)

基本額…30万円 移住者加算…40万円

子育て加算(15歳未満の子に限る)

第1子:15万円 第2子:20万円

第3子以降:50万円

(戸建て中古住宅取得補助事業)

基本額…20万円 移住者加算…40万円

子育て加算(15歳未満の子に限る)

第1子:15万円 第2子:20万円

第3子以降:50万円

○定住者向け

(若年層定住促進補助事業)

基本額…30万円

子育て加算…15歳未満の子1人につき15万円

◇要件

- ①新規取得した住宅の所有者
- ②同居世帯員全員が所在地に住民登録をしている
- ③同居世帯員全員に市町村民税等の滞納がない
- ④3年以上継続して対象住宅に居住する意思がある
- ⑤過去に同一世帯及び同一区画でこの補助金の交付を受けていない



子育て世帯応援転入費用補助金

◇対象世帯要件

- ①令和2年4月1日以降に転入し、転入時に継続して1年以上本村以外の市区町村に住民登録されており、住宅入居時に15歳未満の子がいる世帯又は申請者若しくは配偶者が妊娠している世帯
- ②転入の日から3か月を経過していない世帯
- ③3年以上継続して本村に定住する意思がある
- ④引っ越し作業を運送事業者と引っ越し等に係る契約を締結していること
- ⑤申請者及び同居世帯員全員が前住所地の市区町村税について滞納がない

◇補助率(限度額)

補助対象経費の総額に2分の1を乗じて得た額とし、10万円を上限とする。

◇補助対象経費

- ①引っ越し運送費用(運賃等)
- ②荷造り等サービス費用(作業員料、梱包資材費等)
- ③付帯サービス料(エアコンの取付手数料等)



新婚新生活支援事業

◇対象者要件

- ①令和3年1月1日から令和4年3月31日まで
に婚姻届を提出し、受理され法律上の婚姻関係
にある
- ②夫婦の前年の総所得額が400万円未満
- ③補助を受けようとする年度の翌年度から2年以
上継続して本村に定住する意思がある
- ④婚姻の日において、夫婦の双方が39歳以下

◇補助率（限度額）

補助対象経費の額（1,000円未満の端数は切り
捨てた額）とし、30万円を上限とする

◇補助対象経費

- ①婚姻を機に新たに村内に物件を購入又は賃貸に
要した費用（購入費、賃料、敷金、礼金等）
- ②引っ越し運送費用（運賃等）



空き家・空き地バンク

村内の空き家及び空き地の有効活用のため移住希
望者等へ情報提供を行っています。

◇ホームページアドレス

<https://www.vill.tamakawa.fukushima.jp/akiya/>



◇事業の流れ

- ①貸したい・売りたい人が「空き家・空き地バ
ンク」に登録（物件登録者）
- ②借りたい・買いたい物件があれば村に連絡（利
用希望者）
- ③物件登録者及び利用希望者に互いの情報を連絡
- ④交渉・契約は当事者間で交渉するか、登録事
業者（宅建業者）の仲介により交渉



空き家・空き地バンク利活用事業費補助金

◇対象者

令和2年4月1日以降に玉川村空き家・空き地
バンクを利用して、契約が成立した空き家・空
き地の所有者及び購入者

◇補助率（限度額）

購入契約1件につき 所有者上限5万円
購入者上限10万円

◇要件

- ①空き地を購入し、その土地に住宅を新築し当該
住宅に3年以上居住する意思がある
- ②空き家を購入し、当該物件に3年以上居住する
意思がある
- ③空き家・空き地の所有者



たまかわで育む!



たまかわっ子 子育て支援給付金

◇支給要件

- ①保護者が3歳未満の児童を養育していること。
- ②保護者が村に住所登録されており、継続して1年以上本村に住所を有すること。
- ③保護者及び保護者と生計を同じくする者に、村税等の未納がないこと。

◇給付金の額(月額)

児童1人あたり5,000円



たまかわっ子誕生祝金

◇支給要件

- ①子どもの誕生日前、引き続き1年以上玉川村に住所を有し、現に居住していること。
- ②子どもの誕生日後、引き続き3か月以上玉川村に住所を有していること。
- ③第2子以降については、生計を同じくする18歳以下の兄弟が同居していること。
- ④保護者及び保護者と生計を同じくする者に、村税等の未納がないこと。

◇祝金の額

第1子:10万円、第2子:20万円、第3子以降:50万円



児童手当

◇支給要件

中学校卒業までの児童を養育している方。

◇支給額(1人あたりの月額)

- 3歳未満……………一律15,000円
 3歳以上小学校修了前…10,000円
 ※第3子以降は15,000円
 中学生……………一律10,000円



こども医療費助成金

◇助成対象

村に住所を有し、健康保険に加入している0歳から18歳に達する年度の末日までの方

◇助成金の額

保険診療分の自己負担額、入院時の食事療養費

◇申請期間

診療日から5年以内



こんにちは赤ちゃん訪問

赤ちゃんの体重測定や育児相談、産後の体調相談、母子保健サービスの紹介をします。



離乳食教室

4～5か月の赤ちゃんがいる保護者を対象に赤ちゃんの食事と栄養についてのお話をしています。



発育発達相談会

乳幼児健診のほかに、2歳児、4歳児の発育発達相談会を実施しています。



1歳児バースデー健診

1歳児の保護者を対象に相談会を実施しています。



乳幼児健診

3・4か月児健診、9・10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診を実施しています。



すくすくクラブ

0歳児～入園前までの乳幼児と保護者のための交流の場です。親子で楽しく遊ぶ事業を月に2回実施しています。

友好都市の台湾 鹿谷郷との

国際交流



村のイメージキャラクター「クックちゃん」と鹿谷郷の子どもたち

玉川村と台湾南投縣鹿谷郷

台湾南投縣鹿谷郷との交流の始まりは、当時、玉川村に福島空港の建設が決定し、これに伴い「国際的視野を持った人づくり」の推進を図るため、昭和63年5月3日に友好都市提携を結びました。

以来、相互訪問を重ねながら、一輪車、サッカー、ソフトボール、ミニバスケットボールなどによるスポーツ交流や書道交流、農業視察など、教育・文化・産業の各分野において様々な交流を実施しています。

鹿谷郷について

鹿谷郷は、台湾烏龍茶として有名な「凍頂烏龍茶」の産地として知られており、また小学校から英語教育に力を入れるなど教育についても国際化に対応できる人づくりを行っています。

気候は温暖で、動植物の種類が豊富であり、風光明媚な鹿谷郷は、観光地としても人気があり、年間約111万人の観光客が訪れており南投縣の経済発展に寄与しています。国家森林遊樂区の一つである「溪頭森林遊樂区」は、国立台湾大学農学院が管理しており、銀杏や孟宗竹など温帯の植物が生い茂り、台湾杉や柳杉などの高木の森林地、遊歩道が整備されているため森林浴を楽しむことができます。また、溪頭森林遊樂区は、多種類の蝶や野鳥が生息しているため動物保護だけでなく、環境教育や学術研究の場としての役割もはたしています。



震災後の米の全袋検査を視察する鹿谷郷訪問団



鹿谷郷を訪れた玉川村訪問団



伝統楽器を披露する鹿谷郷の子どもたち



1 乙字ヶ滝

阿武隈川が滝をなして乙の形をしている。水かさが増すと、100m もある滝幅いっぱいに落下する水しぶきが松の緑に映えて雄大。元禄 2 年には俳人松尾芭蕉が訪れ、その時に詠んだ「五月雨の滝降りうづむ水かさ哉」の句碑が、滝見不動堂のかたわらに。



2 東野の清流

清流のせせらぎが心地よくさわやかな風と小鳥のさえずりが心を和ませてくれます。道歩道に沿う清流には大小さまざまな滝があり、四季折々の表情に癒されます。



3 森の駅 yodge

廃校となった旧四辻分校が「たまかわ観光交流施設 森の駅 yodge」として令和3年にオープンしました。リノベーションされた施設は、かつての分校の面影を残しつつもモダンで、豊かな自然に囲まれながらゆったりとした時間が流れます。



4 福島空港

開港以来「ふくしまの空の玄関口」として親しまれています。東日本大震災では、地震当日から多くの臨時便や救援・支援物資を積載した輸送機、防災ヘリなど災害対応の重要拠点の役割を果たしました。



5 すがまプラザ

令和2年3月に閉校した旧須釜中学校と周辺施設を総称して「すがまプラザ」としています。旧校舎では、須釜支所の機能を充実させ「須釜行政センター」として展開するほか、コワーキングスペースやサテライトオフィスなど新しい働き方の「場」を提供していきます。



6 道の駅たまかわ(こぶしの里)

福島空港に近く利便性に優れているが、周辺の自然と調和した道の駅たまかわ(こぶしの里)は村特産の新鮮な野菜や果物などの直売や、さるなし、トマトなどを加工した豊富な特産品が販売されています。



8 たまかわ文化体育館

可動椅子を備え講演会などにも対応したアリーナ、図書館、歴史資料館を備え、スポーツや文化活動など玉川村の生涯学習拠点です。隣接する屋外ステージや屋根付き広場クックドームたまかわと併せて多くの方に利用されています。



9 玉川工業団地

株式会社 TBK、東京精工 株式会社 有限会社 佐藤製作所、株式会社 福島エンヤ



10 わくわくらんどたまかわ

「天空のあそび場」をテーマに「空」と「空港」をモチーフにしたあそび場です。窓から滑走路や飛行機の離発着を見ながら、子どもたちが安心して遊べます。1回90分の入替制で、小学2年生までの幼児、児童が利用することが出来ます。

たまかわMAP



プロフィール

平成3年10月17日生まれ。

クックちゃんの使命は、玉川村のマスコットキャラクターとして、玉川村を広くアピールすることを任務とし、村役場の名誉職員としての辞令を平成3年11月1日に交付されています。広報たまかわへの初登場は、平成4年1月号で、「TAMAKAWAのTの文字に乗っている鳥が村のイメージキャラクターの山鳩のクックちゃんです！」と紹介されています。



玉川村のイメージキャラクター
クックちゃん



7 こどもの駅

「認定こども園たまかわクックの森」、子どもたちがフットサルやボルダリングを楽しめる「クックドームたまかわ」、その隣に設置されている遊具広場などの空間全体を「こどもの駅」としており、周辺には、たまかわ文化体育館やグラウンドがあります。

基本目標・主要施設の項目の体系

村民と 共に歩み育む 心豊かな村づくり

●村づくりの基本理念

人口減少社会の今、村の維持・発展のためには地域の総合力が今まで以上求られていることから、今後の村づくりの基本理念を以下のように定めることとします。これからの10年間で、村民すべてが心豊かで過ごせる地域社会を実現することを基本理念とします。

あす 未来が輝く村づくり “元気な” たまかわ

●将来像

本村の未来を輝かしいものにするためには、今まで以上にすべての村民や本村で働く人たちが“元気な”村づくりをしていきます。

活力や活気のある玉川村を作り上げるため、地域の歴史や先人の知恵、苦労や失敗を知り、玉川村の未来を考え、進取の気性を持ち、実行・実践していく姿勢を将来像に込めています。

1	皆で支えあう福祉の村づくり	1	保健・医療の充実
		2	社会保障制度の適切な運営
		3	児童福祉・子育て支援の充実
		4	地域で支えあう福祉の推進
		5	障がい者福祉の充実
		6	高齢者福祉の充実
2	環境にやさしい安全・便利な村づくり	1	環境衛生の充実
		2	自然環境の保全と循環型社会の構築
		3	安全で安定した水道水の供給
		4	公園・緑地・水辺の整備
		5	下水道・排水処理施設の整備
		6	合理的な土地利用の推進
		7	居住環境の整備と空き家対策の推進
		8	道路・交通ネットワークの整備
		9	消防・救急体制の充実
		10	防災体制の整備
		11	交通安全・防犯対策・消費者対策の充実
		12	情報化の推進
3	活力のある村づくり	1	農林業の振興
		2	商業の振興
		3	工業の振興
		4	雇用・勤労者対策の充実
		5	観光資源の創造と観光客誘致の推進
4	人を育む村づくり	1	学校教育の充実
		2	青少年の健全育成
		3	生涯学習の推進
		4	スポーツの振興
		5	地域文化活動の推進と文化財の活用
		6	交流活動の展開と国際化への対応
5	交流と協働の村づくり	1	コミュニティ（地域社会）の育成
		2	協働の村づくりの推進
		3	男女共同参画の推進
		4	行財政改革の推進
		5	広域行政の推進
地方創生総合戦略における重点プロジェクト (人口減少対策)		1	選ばれる村づくりプロジェクト
		2	元気な産業応援プロジェクト
		3	共に生きる村づくりプロジェクト
		4	元気な地域づくりプロジェクト



SDGs(誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会)の理念を踏まえ、第6次玉川村振興計画を推進することにより、持続可能な社会の構築に寄与することを目指します。

概 要

- 位 置** 福島県中南部（石川郡）
- 地 勢** 阿武隈山系の西斜面の丘陵地に位置し、比較的平坦地である西部地区と中山間地の東部地区からなり、豊かな自然があふれる農村です。 ※東西 11.3 km、南北 9.2 km、面積 46.67 km²、標高 246m～約 650m
- 気 候** 阿武隈山系特有の起伏の多い地形であるため、標高別の気象条件の変化が大きく、気温の年較差も日較差も比較的大きいのが特徴です。また、東北地方にありながら、冬季の降雪は比較的小さい地域です。
- 人 口** 6,579 人（第 134 回福島県統計年鑑 2020）
- 産 業** 水稲やトマト・キュウリ等の農業が村の基幹産業ですが、西部地区には玉川工業団地があり、多くの雇用を生み出しています。
- 教育関連** 認定こども園 … 1 / 小学校 … 2（放課後児童クラブ … 2） / 中学校 … 1

村 章

[昭和49年制定]



玉川村の頭文字「た」を図案化したもので、村民の和と協力によって明るく豊かな村づくりに着実に進む玉川村を象徴している。

村民憲章

[昭和60年11月制定]

玉川村の住民としての誇りと責任を持ち、美しい自然と伝統ある郷土を愛し、さらに活力に満ちた魅力ある村づくりを進めるため、この憲章を制定し実施します。

1. 美しい自然と伝統を大切にし、住みよい村をつくりましょう。
1. 教養と文化を高め、心豊かな村をつくりましょう。
1. 健康で楽しく働き、活力ある村をつくりましょう。
1. 思いやりと連帯の心を養い、明るい村をつくりましょう。
1. 広い視野と創意を持ち、飛躍する村をつくりましょう。

由 来

須釜村から泉村に流れている玉川（その後名称変更により現在泉郷川となる）にちなんで命名されたもので、その意味には、相馬にある妙見神社がその昔、泉の庄玉川の辺に鎮座したという古事もあり、さらに泉が須釜村と合併して川になると言う意味が含まれていると、合併当時の記録に記されている。妙見神社：両村境の玉川沿いの小高い森に鎮座する社である。

シンボル

[昭和60年制定]



村の花：山桜

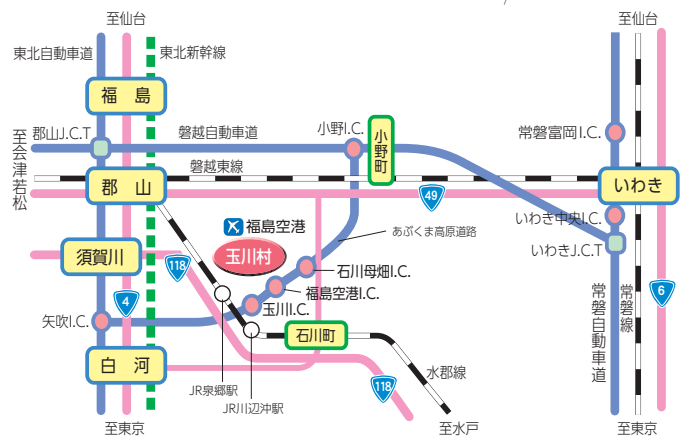


村の木：赤松



村の鳥：山鳩

アクセス





玉川村役場 総務課

〒963-6392 福島県石川郡玉川村大字小高字中畷9番地

TEL 0247-57-3101 FAX 0247-57-3952

ホームページ <http://www.vill.tamakawa.fukushima.jp>